

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 沼 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語、算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に 関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

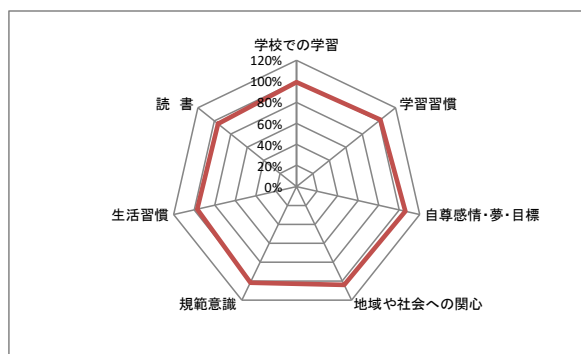
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・無解答率は低く、積極的に解答に取り組む姿勢がみられる。 ・「読むこと」と「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、問題の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。」	
	努力が必要な問題	「資料を用いた目的を理解する。」「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。」「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。」「文の中における主語と述語との関係を捉える。」	
算数	全体的な傾向や特徴など	・無解答率は低く、積極的に解答に取り組む姿勢がみられる。 ・問題の意図に沿って、解答に必要な数値や情報を適切に読み取る力が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「条件に合う時刻を求めることができる。」「棒グラフから、数量を読み取るすることができる。」	
	努力が必要な問題	「速さを求める除法の式と商の意味を理解している。」「データを二次元の表に分類整理することができる。」「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる。」	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>・「自分には、よいところがあると思いますか。」について、肯定的な回答率が全国平均を上回っている。また、「将来の夢や目標を持っていますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の肯定的な回答についても、全国平均を上回っている。児童の自尊感情をさらに高めつつ、将来の夢の実現に向けた具体的な目標設定をしたうえでのキャリア教育を行っていくことが必要である。</p> <p>・日々の学習習慣が定着してきている一方で、週末の学習時間が短い傾向にある。また、読書時間も短いので、適切な家庭学習課題の設定や読書活動を活発にする取組を行っていく必要がある。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・朝学習の時間に、3年生以下の学年では、言葉や漢字、たし算、ひき算、かけ算、割り算などの課題に繰り返し取り組み、基礎的な学力の定着を図る。また、4年生以上の学年では、「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する。」「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。」「問題に係る課題に取り組むようにする。」

② 家庭生活習慣等に関する取組

・学校スタンダードに基づいた家庭学習課題を設定し、日々の学習習慣の定着を図る。また、学校図書館の利用や電子図書館の利用を啓発し、学校内と家庭での読書活動の充実を推進していく。